

東海環状自動車道

インターチェンジ
海津スマート IC

計画概要



海津市
K A I Z U





目 次

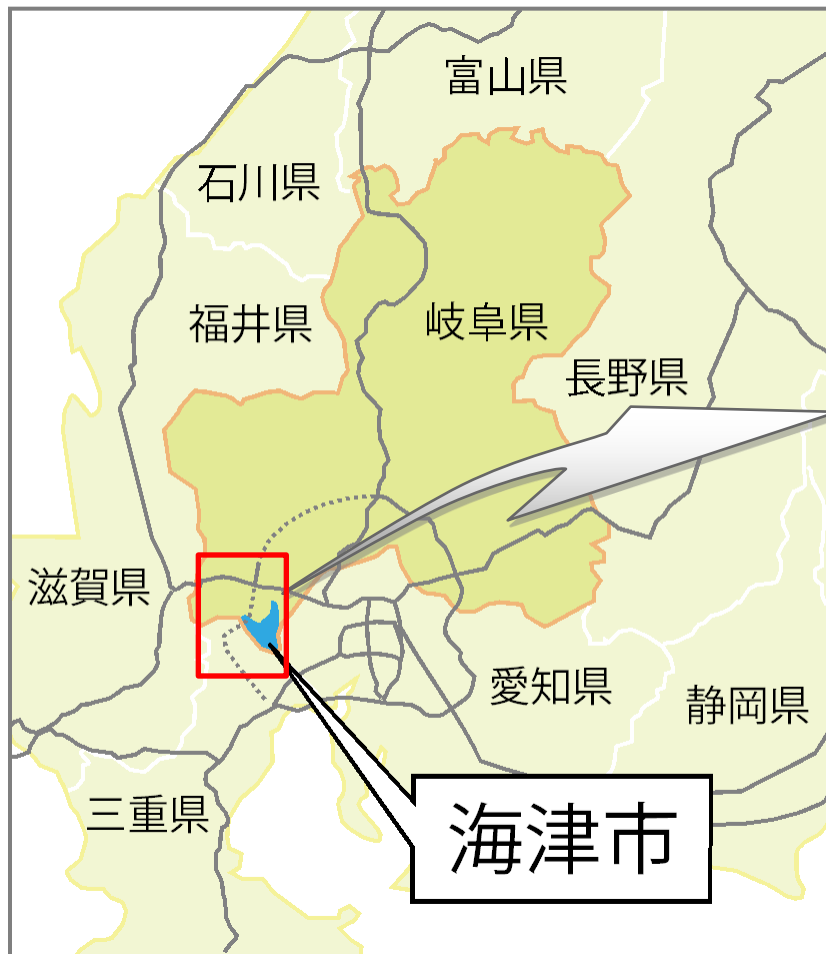
《実施計画書》

01 路線名	1
02 連結位置及び連結予定施設	2
03 連結を必要とする理由	3
04 スマートICの設置により期待される整備効果	4-11
05 周辺道路計画図	12

01 路線名



[路線名] 東海環状自動車道
(一般国道475号)



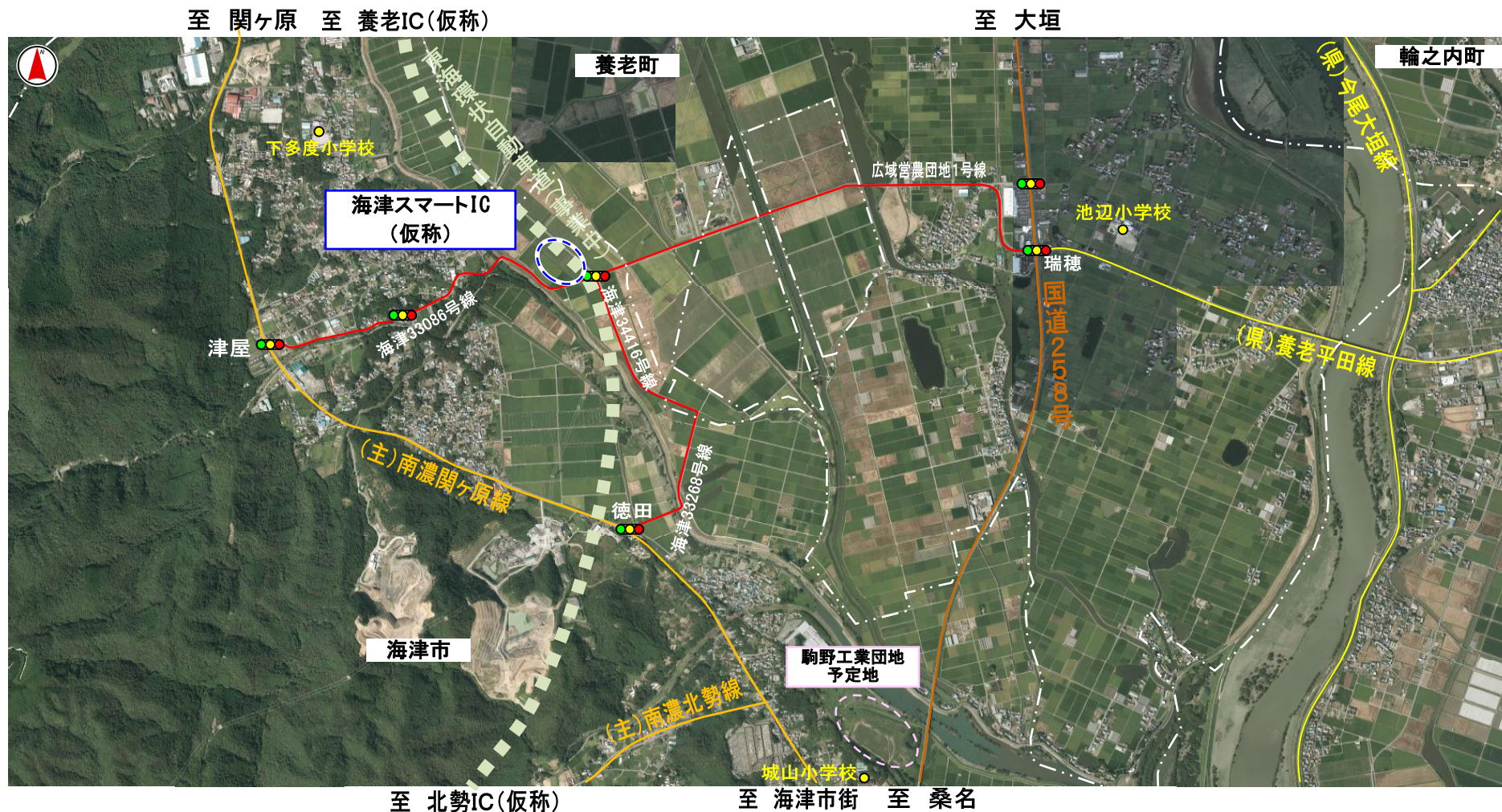
02 連結位置及び連結予定施設

[連結位置]

岐阜県 海津市 南濃町 志津新田地内

[連結予定施設]

海津34421号線



03 連結を必要とする理由

1. 東海環状自動車道を通じた地域間連携強化による地域産業の強化

平成32年度供用予定の東海環状自動車道は、海津市域の北部を通過し、市内にPAの設置計画があるが、高速道路への出入り口が設置されなければ、本市が高速道路の空白地帯であるという状況は解消されないことが課題である。スマートICを設置することで、本市と、三重県の四日市港や北勢地域の産業拠点が直結され、市内の既存企業や計画中の工業団地に対する産業振興や企業誘致の促進が期待される。また、基幹産業の一つである農業では、県内1位の出荷量を有する数多くの農作物(小麦、大豆、きゅうり等)が存在し、スマートICを設置することで、搬送時間の短縮や新たな出荷先の創出などが期待される。よって本市の地域産業の強化・発展に向けて、海津PAへのスマートICの設置が必要である。

2. 高速道路へのアクセス性向上による観光誘客や地域活性化

海津市には、県下上位の入込客数を誇る観光施設(千代保稲荷神社、国営木曽三川公園等)が存在するが、高速道路へのアクセス性に劣ることが課題である。また、市域中心部から高速道路までのアクセスに時間を要し、利便性に劣ることも課題である。本市への観光誘客の促進のほか、市民生活における利便性を高め、地域の活性化を図ることを目的に、海津PAへのスマートICの設置が必要である。

3. 大規模災害時の支援ルート確保

海津市では、東海地震や東南海地震といった海溝型地震や活断層による内陸型地震など大規模地震の発生が危惧されている。また、市西部を通過する国道258号や(主)南濃関ヶ原線は緊急輸送道路に指定されているが、養老山脈の土砂災害危険区域を背負うため、災害時の支援道路として課題を残す。よって、東海環状自動車道を本市の災害支援道路の主軸として活用し、海津市及び周辺市町へのより迅速な救援活動・物資輸送路の確保に役立てるため、海津PAへのスマートICの設置が必要である。



海津PAへのスマートICの設置により、以下の多面的な効果が期待される。

- 1 東海環状自動車道を通じた産業拠点との連携強化による地域産業の強化
- 2 高速道路へのアクセス性向上による観光誘客の促進や、市民生活における利便性の向上による地域活性化
- 3 災害や緊急時における災害支援経路の確保、高速道路内への避難経路の確保

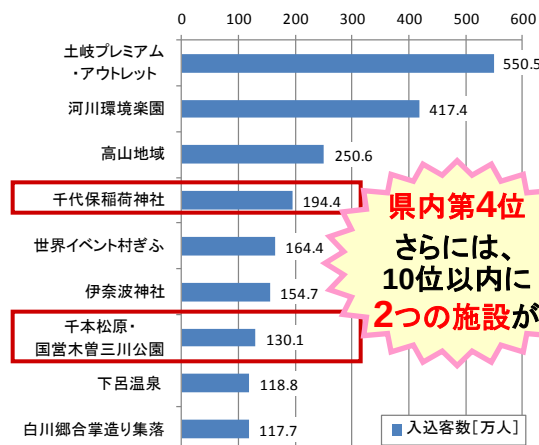
04 スマートICの設置により期待される整備効果【観光支援】



整備効果① 県内で集客力の高い観光施設「千代保稲荷神社」へのアクセス性向上

海津市内に位置する「おちょぼさん」の愛称で親しまれている千代保稲荷神社は、日本三大稲荷の1つとして知られ、商売繁盛、縁結び、合格祈願などにご利益がある。年間約二百万人の参拝者で賑わい、特に正月三が日や月末月始の月並祭、15日は大変混雑する状況にある。海津PAにスマートICを設置することにより、関西方面や三重県方面からのアクセスに対して時間短縮効果が得られるほか、交通分散による国道258号の混雑緩和や、神社までの分かりやすい誘導経路など、参拝者の利便性向上に寄与する。

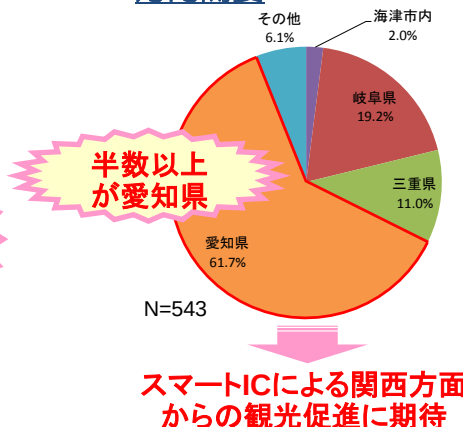
○岐阜県内の観光施設の入込客数（H24）



県内第4位
さらには、
10位以内に
2つの施設が

※)岐阜県ホームページ 岐阜県統計書より算出

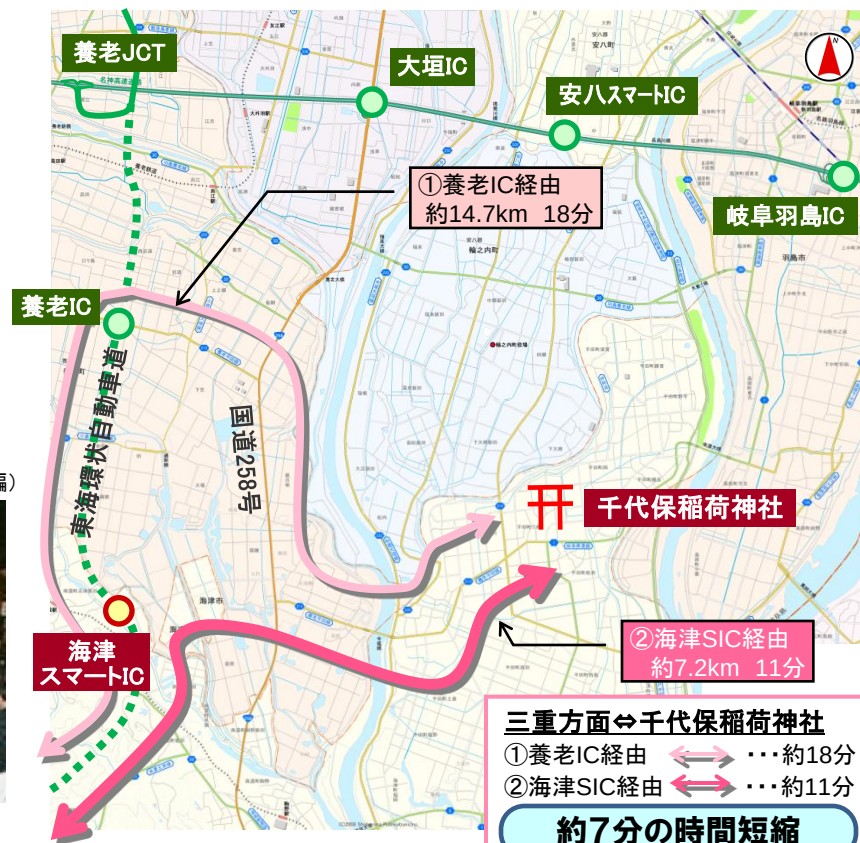
○千代保稲荷神社の 方向需要



※) 出典: H19海津市観光アンケート(千代保稲荷神社編)



スマートICの設置により、目的地までの時間短縮が得られるほか、混雑する国道258号を経由せずに向かえ、案内誘導もわかりやすい。



至 三重方面
関西方面

04 スマートICの設置により期待される整備効果【観光支援】



整備効果② 玄関口の開設による観光地までの時間短縮や、新たな周遊ルートへの創出

海津市内の入込客数は、千代保稲荷神社のほか、豊かな自然資源を背景に、千本松原（国史跡油島千本松締切堤）や国営木曾三川公園、月見の森、また、地元産農産物を中心とした海津市の特産品を販売する道の駅などを中心に、年間500万人以上にも及び、県内でも有数の観光地である。海津PAにスマートICを設置することにより、高速道路のアクセスが向上し、市域に点在する観光資源を回遊するなど、利用者のニーズに応じた観光ルートが形成され、観光客の増加が期待される。

【コース例①】

海津市の人気スポットを巡るコース

海津スマートIC

千代保稲荷神社

クレール平田

歴史民俗資料館

木曾三川公園・千本松原

月見の森・南濃温泉「水晶の湯」

月見の里南濃

海津スマートIC

【コース例②】

歴史探訪コース

海津スマートIC

月見の里南濃

行基寺

木曾三川公園・千本松原

歴史民俗資料館

千代保稲荷神社

海津スマートIC

【コース例③】

アクティブコース

海津スマートIC

さばう遊学館

アクアワールド
水郷パークセンター

長良川
サービスセンター

長島IC

<凡例>

■：歴史・史跡

■：温泉

■：道の駅

■：公園等



木曾三川公園



月見の森



千本松原



南濃温泉「水晶の湯」



歴史民俗資料館



長良川サービスセンター

歴史・自然・癒しなどを体験しながら
1日を回れる周遊性の高いルートを構築!!

04 スマートICの設置により期待される整備効果【産業支援】



整備効果③ 隣接県との産業振興や、文化交流に対する拡大支援

海津市は、岐阜県の最南端に位置し、県南部の玄関口として、愛知県や三重県からの訪問客の受け入れを担っている。平成17年に合併した当市は、旧海津町や旧南濃町から北勢地域を往来する自動車交通の需要が高く、三重方面との繋がりが強い地域である。東海環状自動車道の開通により、地域間連携がますます高まるなか、海津PAにスマートICを設置することにより、岐阜県の玄関口として「人・もの・文化」など、産業振興や文化交流に対する機能拡大に繋がる。

■産業振興の支援

○インターチェンジアクセス圏の拡大

海津スマートICの整備により、IC10km圏域に存する企業が拡大（15社程度増加する）

東海環状自動車道への接続により、多様な産業が集積する
三重県北勢地域との連携強化が期待できる！

＜期待される効果＞

- ・北勢地域や四日市港とのアクセス向上（輸送時間短縮効果）
- ・北勢地域との連携強化による工業団地への企業誘致の促進

【製造品出荷額の三重県内順位】

- 1位 四日市市
- 2位 鈴鹿市
- 3位 亀山市
- 4位 津市
- 5位 いなべ市



高速まで10km圏域の
企業が、およそ
15社増加

○三重県北勢地域の産業集積地や、四日市港とのアクセス強化

製造品出荷額において、高い全国シェアを持続する三重県の中でも出荷額の県内上位を占める北勢地域に直結することにより、海津市における産業振興の促進が期待される。

○既存企業からご意見（企業ヒアリング）

- ・会社からICまでの距離が短縮されるため、通勤が便利になると思います。
- ・仕入先や客先の訪問数が増加する事など、業務効率の向上が期待できます。



海津スマートICの設置により、IC10km圏域が増加した地域

●企業※

※海津市内の主要な企業（製造業では、従業員30名以上の企業など）

08 スマートICの設置により期待される整備効果【交流拡大】



■文化交流の拡大

○東海環状自動車道を交流軸とした地域間の交流・連携強化

海津スマートICの整備により、隣接するいなべ市や東海環状自動車道沿線の自治体との交流促進が期待される。

養老山脈を隔てて隣接する岐阜県海津市と三重県いなべ市は、2020年の東海環状自動車道の全線開通に向けて、お互いの広報紙を通じて、自然や歴史、食文化や観光施設など「地域の見どころ」を紹介し合い、地域交流や連携を深めている。

◆◆◆現在実施されている地域間交流イベント◆◆◆

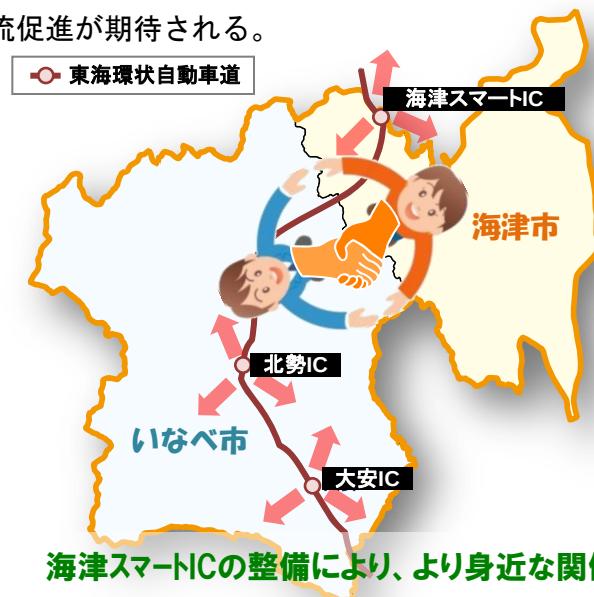
海津市産業感謝祭

海津市の農畜産物の販売やバザー、ステージイベントなどが行われる毎年恒例のイベント。

2012年より、三重県いなべ市が特産品コーナーを出店。同様に、いなべ市の「いなべ市民感謝祭」に海津市が出店。両市の広報では、随時イベント情報を掲載。



海津市産業感謝祭の様子



※海津市における代表的なスポーツイベント開催

海津市では、河川を利用したスポーツイベントも盛んに行われている。木曽三川交流レガッタ大会、長良川国際トライアスロン大会を始め、長良川ふれあいマラソンなど、自然と水が触れ合える交流拠点として、毎年多くの参加者が訪れている。

長良川国際トライアスロン大会(第28回)

毎年、海津市(国営木曽三川公園)にて、トライアスロンの国際大会が開催されており、500名近い参加者が競い合っている。昨年までに28回の開催を数え、歴史ある大会である。



デ・レーケ記念 交流レガッタ大会(第18回)

毎年9月には、長良川国際レガッタコースにて、「地域交流レガッタ」が開催されている。ボート競技を通じて、地域交流とまちおこしに寄与している。



長良川ふれあいマラソン(第18回)

毎年10月には、河川敷の平坦なコースで、ハーフマラソン大会が行われており、700名近い参加者が競い合っている。



04 スマートICの設置により期待される整備効果【農業支援】

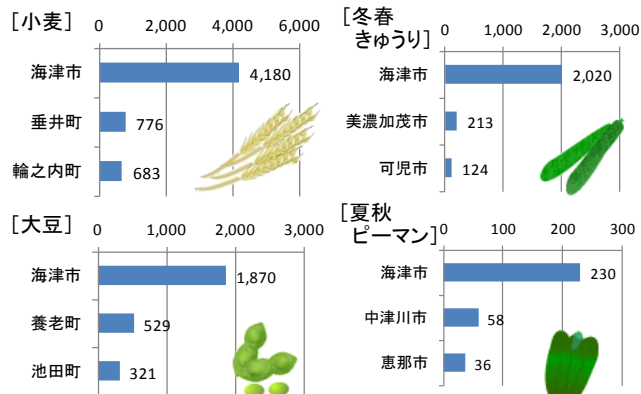


整備効果④ 県下有数の農業地域における生産活動支援

海津市は、市域の大半が農業振興地域に指定されており、優良な農地が多く存在している。水郷地帯の肥よくな土壌を活用した効率的な営農が盛んに行われており、都市近郊型農業の強化を図っている。また、県内で出荷量が上位を占める品目も多数出荷されている。海津PAにスマートICを設置することにより、青物など、足の速い農作物の鮮度確保に寄与するほか、新たな出荷先の創出などが期待される。

○海津市の生産量・出荷量の多い農作物

・県下一位の出荷量を誇る品目を数多く扱う。



※) 小麦・大豆は平成24年産の収穫量 [t]

＜その他出荷量の多い農作物＞ その他は平成18年産の出荷量 [t]

県内 1 位	しゅんぎく、冬春トマト、みかん
県内 3 位	秋冬だいこん、いちご

○グリーンツーリズムの取り組み

- ・海津市では、「商・工・農」の連携による交流人口の拡大、地域ブランドの確立による産業振興、食農教育の推進を目的に、昨年度より開催。
- ・名古屋市や岐阜市からを中心に約40名の参加者があった。

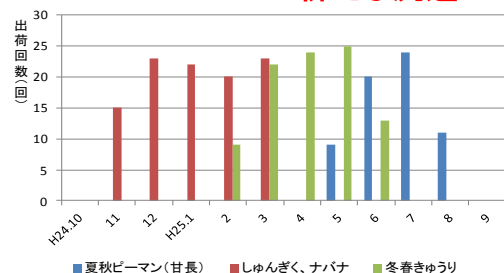


○主な出荷先・回数

- ・ほぼ一年を通じて農作物を出荷する。
- ・北陸(福井、石川、富山)、関西(大阪)が主な出荷先。



＜主な農作物の出荷回数＞



新名神を經由した
新たな流通ルートの創出

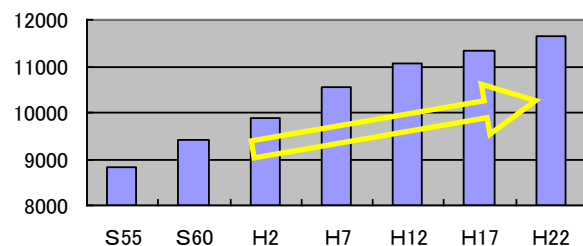


04 スマートICの設置により期待される整備効果【生活・暮らし】

整備効果⑤ 高速道路の玄関口の開設によるインター圏域人口の拡大(利便性の拡大)

海津市は、大垣市や岐阜市、桑名市、そして名古屋市へ30分から1時間程度の距離に位置していることから、各都市への通勤・通学者の定住地として発展してきた地域である。海津PAにスマートICを設置することにより、高速道路からの10km圏域内に、市役所付近の人口の集中地域が新たに含まれることで、圏域人口が大幅に増加し、地域発展に寄与することが期待される。

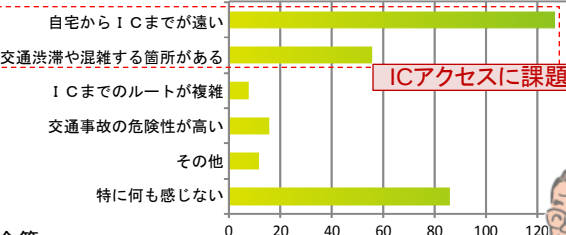
○海津市の世帯数は、年々微増している



※) H12以前は合併前。南濃町、平田町、海津町を合算

○周辺市民からの意見

◆現在の高速道路アクセスに関して、不便に感じる点



ICアクセスに課題

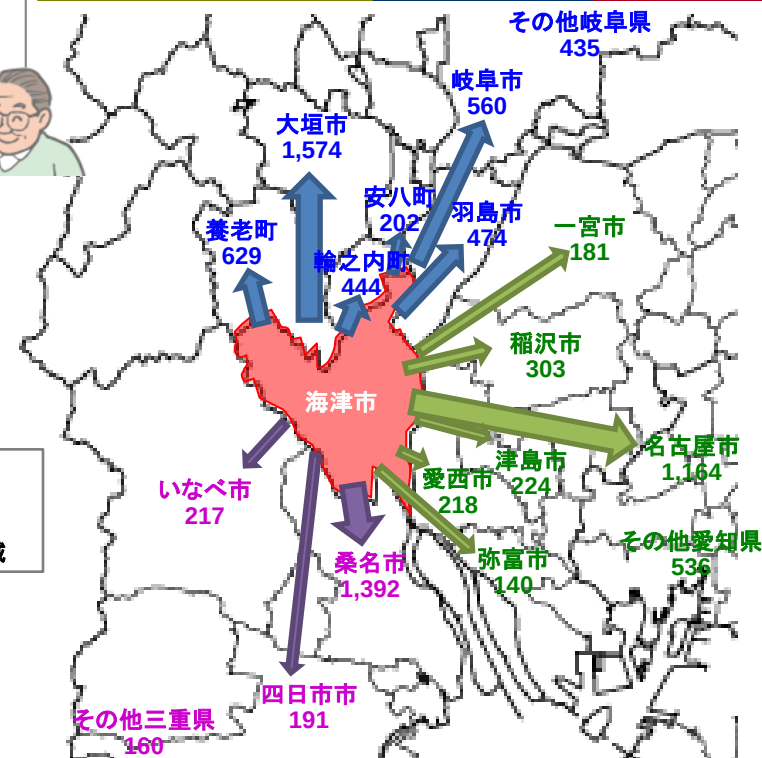
近くにICがあると便利になり、地域が活性化したいと思います。

○海津市の通勤動向

(第5回中京都市圏パーストリップ調査(H23)より)

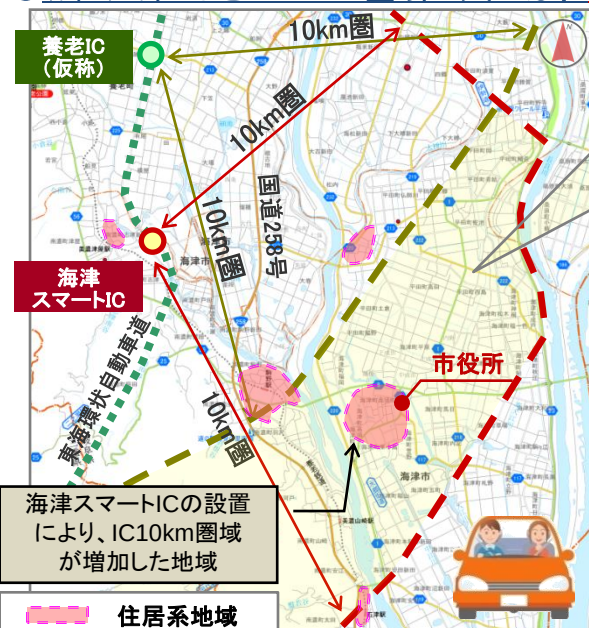
海津市を中心に各主要都市への通勤動向が見られる

愛知県 48% 岐阜県 30% 三重県 22%

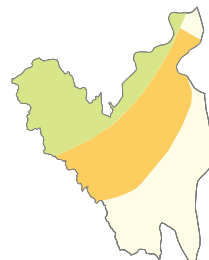


※その他都道府県への通勤者は僅少であるため省略

○インターチェンジからの10km圏域の人口は、約1.5万人増加する



海津市内の高速ICの10km圏域に住む人口の割合が、
約23%から約62%へ増加



養老IC10km圏域
海津スマートIC10km圏域

市内で最も人口が集中する市役所周辺の住居系地域が10km圏域に含まれる。

※) 10km圏域は概ね15分圏域相当

※) 人口はH22国勢調査より字を面積案分して算出

04 スマートICの設置により期待される整備効果【安全・安心】

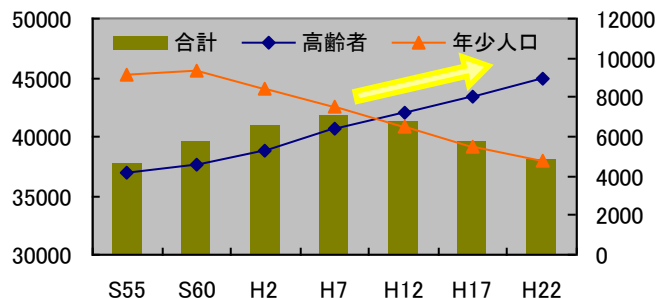


整備効果⑥ インターチェンジまでのアクセス時間の短縮による地域医療サービスの向上

少子高齢化の著しい海津市では、高度救急医療が必要となった場合、第三次救急医療施設で岐阜県内で唯一の高度救急医療センターでもある「岐阜大学附属病院」までスマートICを利用することで搬送時間が短縮され、地域の医療サービスの向上が期待できる。

○海津市の人口推移

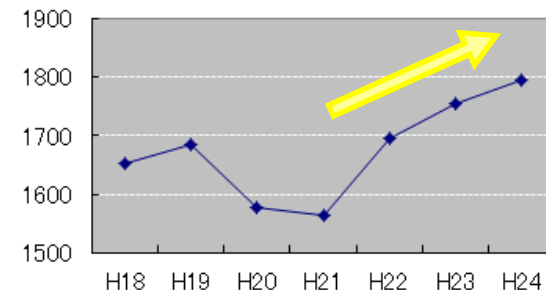
近年の人口減少と急速な少子高齢化が顕著な地域



※)H12以前は合併前。南濃町、平田町、海津町を合算

○海津市の救急搬送件数

救急搬送は年々増加傾向



※)海津市消防本部資料より

○岐阜大学医学部附属病院までの搬送時間の短縮

海津スマートICを経由して岐阜大学附属病院へ搬送する場合、養老ICを経由するルートと比較して、約4分の時間短縮が期待される。(海津SIC付近の旧南濃町地域を起点として算出)

<周辺に立地する第三次救急医療施設までの所要時間>

医療施設名		整備なし	整備あり	時間短縮
高度救命救急センター	岐阜大学医学部附属病院	34分	30分	4分
	大垣市民病院	27分	23分	4分
救命救急センター	市立四日市病院	56分	45分	11分
	三重県立総合医療センター	62分	51分	11分

○海津スマートICから南西方面への救急現場の即時性向上

海津スマートICから南西方面で発生した緊急事態において、現場急行の即時性が増すことが期待される。

スマートICを利用して、第三次救急医療施設への時間短縮が期待できるほか、南西方面地域に向けて、現場急行の即時性が増加する。



04 スマートICの設置により期待される整備効果【防災】

整備効果⑦ 災害時の緊急避難路や復旧支援経路の構築によるリダンダンシーの強化

海津市では、東海地震や東南海地震といった海溝型地震や活断層による内陸型地震など大規模地震の発生が危惧されている。また、市西部を通過する国道258号や(主)南濃関ヶ原線は緊急輸送道路に指定されているが、養老山脈の土砂災害危険区域を背負うため、災害時の支援道路として課題を残す。スマートICの設置により、海津市及び周辺市町へのより迅速な救援活動・物資輸送路の確保が可能となる。

○東海地震・東南海地震の発生

東海地震や東南海地震といった大規模地震の発生が懸念されており、海津市は「東南海・南海地震防災対策推進地域」の指定を受けている。海津市周辺では、震度5強が予測されている。

○活断層(関ヶ原-養老断層系)の存在

海津市には、養老山地の東縁の関ヶ原-養老断層系と平地部の伏在断層がある。関ヶ原-養老断層系がきっかけとなって地震が発生した場合、最大震度6が予測されている。(海津市の地域防災計画より)

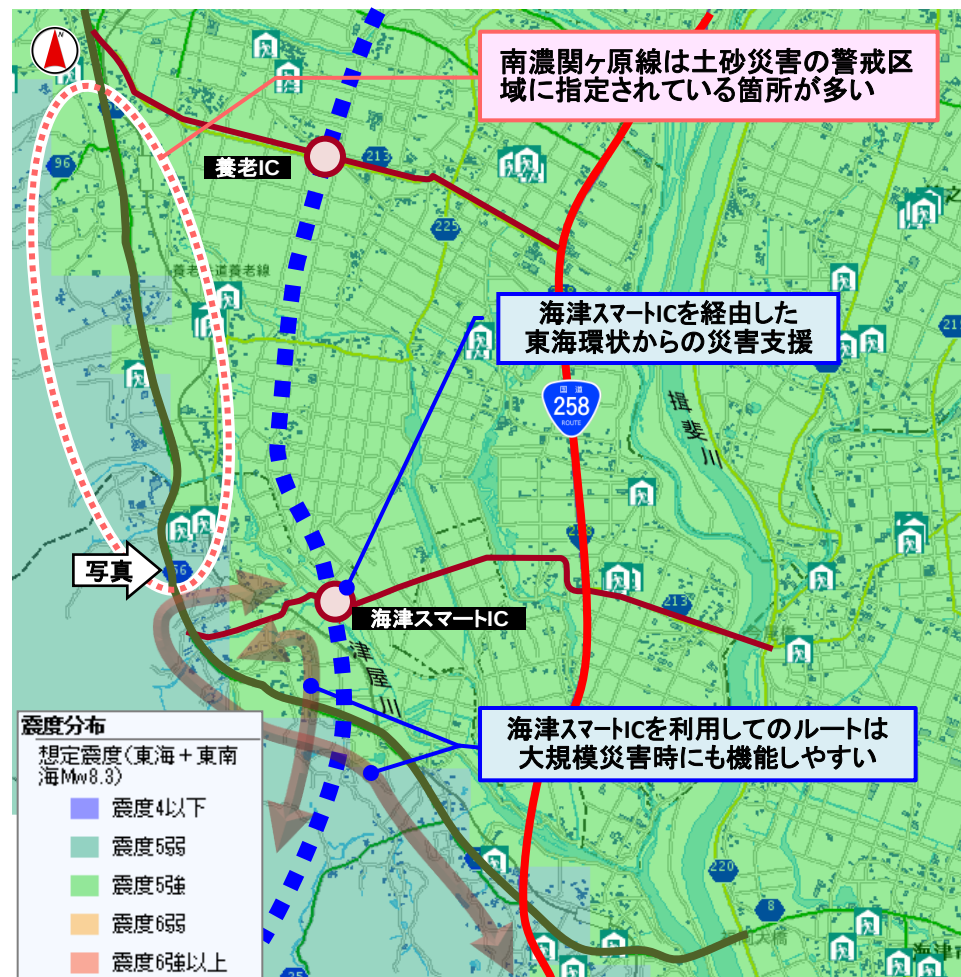
○土石流危険渓流による土砂災害の恐れ

養老山地の沢筋の多くは「土石流危険渓流」等に指定されている。旧南濃町地域は、土砂災害の危険が高いほか、緊急輸送道路が寸断する恐れもあり、迅速な復旧作業に支障をきたす可能性がある。



写真：(主)南濃関ヶ原線での土砂流出の状況
※H25.9.16 台風18号に伴う大雨による被害

大規模災害時には海津市地内へ派遣される災害対策車両は、東海環状自動車道を利用し、海津スマートICを被災地進入・災害支援の起点として採用することで、海津市及び周辺市町へのより迅速な救援活動・物資輸送路の確保が可能となる。



05 周辺道路計画図



周辺道路整備計画図

